



# e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』  
メールマガジン  
(第8号)

2003年5月22日発行

## この広い世界のなかで あなたに会えてよかった・・・



これが、私たちの実感です。太平洋をはさんで、遠く地球の裏表で、こんなにもたくさんの方たちが、悪条件を乗り越って番組に耳を傾けてくださった。そのひとりびとりにふたたび出会うことができた、その幸せをかみしめているところです。ここでいただいたリスナーのみなさまからのお手紙の一部を紹介させてもらい、短波で結ばれた固い絆をともに確かめながら、これからの交わりをいっそう深めさせてもらいたいと願っています。

在生 尾崎一夫 久子

<リスナーのみなさまからのお手紙の抜粋、順不同・敬称略>

「こちらはアンデスの声、HCJBの日本語放送です」 - ひさしぶりの懐かしいアナウンス、懐かしいひとたちと再会することができ、とても幸せです。昔にタイム・スリップしたような、同窓会に出席しているような、何かあるとみんながこうして駆けつけてくれる、そんな仲間が大勢いる・・・暫し、時の経つのも忘れてアットホームな雰囲気にはたっていました。またお会いできる日を楽しみに。 (茨城)宮原 和彦

ゴールデン・ウィークは娘を連れて静岡県伊豆高原へ。ですが、特別放送をきくために短波ラジオを持参してタイム・録音しましたが、東京の受信環境と違って、良好に受信でき、楽しいコンサートの模様を堪能しました。私もギターやウクレレを演奏するのでチャランゴには興味があります。なかなか日本では機会がすくないので、エクアドル音楽などは、今後も続けてきかせていただきたいと思います。 (東京)辻 由起子

BCLを復活させてからアンデスの声終了までの間、毎日レポートを出し、最後の放送の何回分かはMD録音。今日の放送もパッチリMDに入れて保存です。キトからの放送は最後とのことですが、40周年、50周年の節目には必ずというのは無理なお願いでしょうか。私は1999年に結婚、2000年に長男が産まれました。 (千葉)鈴木 道治

放送当日は、大阪での商用もそこそこに(笑)大慌てで帰宅。「こちらはアンデスの声」のアナウンスを耳にしたときには鳥肌が立ってしまいました。時間があつという間に過ぎてしまい心残りいっぱいです。コンサートの数々の演奏に何度鳥肌がたつたでしょう。困ったもんです。毎日の帰宅は深夜をまわりますが、なんとか時間をみつめてインターネット放送もきかせていただきたいと思います。 (京都)永野 正和

39周年記念特別番組は、楽しみにしておりましたのに受信状態が芳しくなく残念でした。しかしながら和気あいあいのコンサート・パーティの模様が目にうかぶような一時間でした。今後はシカゴからのインターネット放送とのことですが、出来ることであれば、尾崎夫妻の作られた番組がインターネット回線を通じてキトあるいはオーストラリアに送られ、それが短波にのって世界を駆け巡ることになれば、われわれBCLとしては、このうえない喜びであります。 (東京)細谷 正夫



良好な受信状態で特別放送を楽しむことができました。奇しくも、着任間もない平松大使が祝辞で述べられた内容が、永年、アンデスの声を愛聴してきた者の率直な気持ちを代弁してくださっていたと思います。あわせて、大使は「自国とはあまり所縁もない国の言葉で短波放送をおこなうことを許可してくれたエクアドル国の寛容さ」にふれておられましたが、つい見落としがちな極めて重要なことにも着目されておられました。あらためてエクアドルに感謝を申しあげたい気持ちです。「勝ち組」と「負け組」などと色分けされる昨今の日本。私自身も、今後いかに生きるべきかを模索しながら、引き続き、アンデスの声のお話に耳を傾けていきたいと思っています。(神奈川)小林 哲朗

今回エクアドルで「制作」「放送」される最後の番組を拝聴することができて大変うれしく思っています。39(サンキュー)周年で最後の最後にふさわしい番組は同時にインターネットの門出を飾るにもふさわしい雰囲気がたくさん詰まっていた。ふとこれって何だろう?と不思議でした。時間、場所、人種、性別を越えた境界のないこのコンサートの雰囲気は、これまでHCB日本語部がつちかかってきた地道で、誠実な活動の賜物と感じました。折しも、昨今の世界情勢は21世紀の区切りとともに、あたかも過去に遡るかのごとく、力で力を封じこめる理論が台頭する気配をみせるなど、非常に不穏なものを感じさせます。放送のなかの言葉を引用させていただければ、「本当の平和=心の平和」の実現がこの世紀では求められているはずのように思われます。北米に拠点をうつされてもネットを通じて交流がもてる番組、企画を期待しています。(長野)今井 裕道

コンサートでは、いろいろな演奏がきけましたが、お写真で顔を存じておりますので、歌う姿が目には浮かぶようでした。ラファエルさんや、内田さんなど、日本語放送ゆかりの人々の登場で感慨深いものがありました。このような番組を楽しみにしているリスナーは非常に多いはず。毎年一度、イベント的にこのような番組を続けていただけとうれしいです。年間活動の報告、お便り紹介、聖書のメッセージなどいろいろと内容が考えられると思います。私自身の感覚ですが、インターネットはいつでも番組が楽しめるという大きなメリットがあると同時に、時間が決まっていないので、かえってなかなか聴く機会がもてないというデメリットもあります。ある決まった時間に放送があると、一日の生活のなかに習慣として根づくものが、日常の雑務にまぎれて聴けなくなってしまうのです。今回の特別放送も、短波だったということで、逆説的かもしれませんが、むしろより多くのリスナーの耳にとどいたのではないのでしょうか。(東京)甲斐 基文

正真正銘最後のキトからの放送ということで準備して受信にのぞきました。4月26日の試験送信が強力だったのでまず大丈夫と思っていましたが、その通りの好受信状態でした。手元に「アンデスの声リスナーズ・アルバム」を置き、ハムフェアでお会いした時のことや日本語放送開始のことなどを思い出しながら一時間を過ごしました。すでに故人になられた方の写真もあり、あらためて39年の年月の長さを感じさせられました。今後も年一回で結構ですので、どこかのHCB送信所から短波で放送していただくと楽しいですね。番組のなかでおっしゃっていた「諸悪の根源」である「人間の貪り」を個人的にも、社会的にも解消できるよう努めたいと考えます。(東京)赤林 隆仁



うわぁ懐かしいISです。来年も聴きたいですね。メルマガのオンライン・アルバムをプリントアウトして、それを見ながら拝聴しました。わたし自身コンサート会場にいるような気分になって聞き入ってしまいました。電波ってほんとうに便利ですね。これが片方向ではなく双方向で実現できればもっと楽しいでしょうね。毎日放送していたころは30分でしたが、今日の放送の1時間は短かったですね。待ちに待った放送だけに感銘しました。本当によかった。また来年も期待しても構わないでしょうか。(千葉)須藤 幹雄

39周年感謝記念放送を、赤道近くのシンガポールで拝聴いたしました。以前とかかわらぬ開始アナウンスに、とてもなつかしくなりました。尾崎夫妻のお声も昔とまったく変わらず、お元気な声をきくことができてうれしく思いました。キトからの送信はこれが最後とのこと、時代の流れを感じます。でもHCBではオーストラリアからの放送を開始したようですが、これからもお仕事にお励みください。(シンガポール)近藤 広樹



1979年以来のレポートです。昨年10月にBCL活動を再開。今回はラジオ韓国の「BCL情報」で特別放送のを知り、うれしさのあまり興奮しながらの受信です。本当にありがたい企画で大喜びです。(埼玉)松本 卓也

いつもと変わらぬ番組をふたたび拝聴でき、うれしく思いました。とくに番組後半での「本当の平和は心の平和」というメッセージには、このような世界情勢のなかだけに十分にうなずけるものがありました。(埼玉)村田 修一

今日一番印象に残ったのは、「本当の平和は心の平和からうまれる」という一節です。世界中がキナ臭くなっていますが、「アメージング・グレイス」の歌とともに心にしみわたりました。来年はオーストラリアからの電波でしょうか。(東京)浜田 進

本日は会社から急いで帰ってきて特別放送をききました。歴史あるHCBの日本語放送ですから、キトがだめでも、オーストラリアから放送してください。わたしは奇蹟を信じています。(神奈川)関本 大

中学2年の時から20年が過ぎ、アンデスの声がこれが最後かと思うと感慨深いものがあります。しかし尾崎夫妻には生涯現役で放送をお願いします。私のようなものを愛してくださったイエス様がきっと助けてくださると信じます。(愛知)岩奥 彰

まさか、ふたたび短波でキトから日本語放送を聴く機会がおとずれとは思ってもみませんでした。開始音楽とアナをきいただけで涙がこぼれました。願わくは週一回でも、これは無理でしょうね。でも40周年記念放送はぜひ。(京都)荻野 和俊

変わらぬ放送に驚くとともに、本当にひさしぶりで短波放送の醍醐味を味わえたと思っています。インターネット放送はきかせてもらっていますが、短波による特別放送の再実施を熱望いたします。(三重)大森 邦彦

今夜は七夕伝説になる牽牛星と織女星との出会いのごとく、アンデスの声との出会いを楽しみにしておりました。アンデスの声に出会っておられた平松大使のメッセージがとてもよかったです。(岐阜)渡辺 優

久々に短波放送で元気な声をきき感動しました。インターネット時代とはいえ、ノイズに悩みながら受信する魅力を再認識できました。(仙台)正宗 淳

あっという間の1時間でした。以前と何も変わっていない語り口には安心感をおぼえました。今後はシカゴとのことですが、オーストラリアとの接点はありませんか。いつの日かまたお会いできることを楽しみにしています。(静岡)郷原 徹

「赤道の国...」というアナウンスは、もう聞くことはできないのですね。場所が変わってもこの時期の「年一回」の特別放送はなくさないでください。来年は40周年という区切りの年なので今から期待しています。(茨城)飯島 聡

---

## 【お知らせ】

「『アンデスの声』39周年記念感謝コンサート」の様様をオンライン・アルバムにまとめました。リンク先は、

<http://album.nikon-image.com/nk/NAAlbumPage.asp?un=24172&key=129237&m=0>

です。写真のプリントをご希望の方は、実費ご負担にてご注文いただけます。オンライン・アルバムにログイン後、画面右上にある[プリント]ボタンをクリックし、表示される手順に従って必要事項をご入力の上、お申し込みください。なお、プリントのお届け先は日本国内に限定されておりますことを、予めご了承ください。

ゲストブックも用意してありますので、画面右上にある[ゲストブック]ボタンを押して、ご感想などをご記帳ください。

このオンライン・アルバムのことをお友達に案内するには、画面右上にある[友達に紹介]ボタンをご利用ください。

- このオンライン・アルバムは、2003年7月31日までご利用いただけます。
-

このメールマガジンは、HCJB『アンデスの声』日本語部の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、**Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。**ご面倒ですが、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)まで別途メールにてお知らせください。

---

配信の停止 ( **重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。** )

配信変更先のメールアドレス   
( **重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。** )

新規登録するメールアドレス

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。  
このメールマガジンはコンテンツが大きいので、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org.ec](mailto:kozaki@hcjb.org.ec)

郵便の宛先: HCJB, Casilla 17-17-691, Quito, ECUADOR

---